

献呈の辞

永年にわたり南山大学において教育，研究に尽力されてこられた黒田清彦先生には，2013年3月末をもって，任期満了により退職されました。

黒田先生は，1945年2月にお生まれになり，1967年3月に，東京外国語大学外国語学部スペイン科国際関係専修課程を卒業されたのち，同年4月一橋大学大学院法学研究科経済法コース修士課程に進まれました。1970年同課程修了後，同コース博士課程に入学されて以降，途中約2年半のスペインのコンプルテンセ・マドリード大学への国費留学を経て，1975年3月，一橋大学大学院法学研究科経済法コース博士課程の単位を取得され満期退学されました。そして，2年間の玉川大学でのご勤務の後，南山大学に法学部が開設された1977年4月に，その創設メンバーのお一人として本学に着任されました。

それ以来，36年間の長きにわたり，商法，会社法，企業法さらにはスペイン法を中心に，本学において教育，研究に従事され，とりわけ，スペイン法研究の分野にあっては我が国における草分け的研究者として活躍され，また，本学にて開講されてきた「スペイン法」の講義も他大学にはない外国法科目としてきわめて特色あるものでした。のみならず，司法制度改革の一環としての新たな法曹養成機関として2004年度に発足した南山法科大学院（南山ロー・スクール）においても，法科大学院専任教員として教鞭をとられました。文字通り，南山大学法学部の成長の歩みとともに，教歴を積んでこられたわけで，この間に，講義やとりわけゼミナールなどで黒田先生の薫陶を受けて社会へ巣立っていった卒業生は，夥しい数に上ります。

このような教育ならびに研究レベルにおけるご活躍に加えて，大学行政の面においても，黒田先生はご着任以来，入試，教務，学生，就職，図書館な

ど大学内あるいは学部内のさまざまな委員や役職を務められ、1990年代後半から2000年代初頭にかけては、法学部選出の評議会評議員、法学部法律学科長、大学院法学研究科専攻主任、法学部長、大学院法学研究科長の職を歴任されました。

黒田先生のお人柄は、旺盛な知的探究心のもと言葉や用語の正確さに丹念に意を用いて厳しく学問を究める姿勢の半面で、学生や同僚に対しては、礼儀正しく温厚な中に、ウィットに富んだ話を熱く語り、園芸や武道、球技などのスポーツを好まれるアウトドア派でありました。私が南山大学法学部に着任した2000年度当時は、黒田先生が法学部長として教授会を主宰しておられました。周到な準備のもとに粛々と議事を進められる中で、丁寧でユーモアあふれるご対応ぶりに感心させられたものでした。また先生の園芸、草花への造詣はとりわけ深く、研究室、研究棟の廊下の一角などに鉢植えの観葉植物などを育てられて私たちの目を楽しませ、時に希望者に苗などを配布されるなど、緑あふれる名古屋キャンパスにいっそうの「なごみ」を提供してくださいました。

ご退職に際し南山法学の本号を献呈させていただくにあたりまして、永年にわたる各方面における黒田先生のご尽力、ご貢献に心から感謝を申し上げますとともに、先生の今後ますますのご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

2013年7月26日

南山大学法学会会長 副田 隆重